

C-21 上腕部の形態と上肢の動作域にっりて一報一

昭和女大短大　〇刑部昭子　土門悦子

目的　前報で、上腕圍と腕付根圍の差、上腕部の形態により動作に影響をおよぼすことがわがった。そこで本報では三角筋下縁にゆとりを入れた袖を基本袖とし、布目のちがひ、基本袖よりさらにゆとりを入れたタック入り袖で着用実験し、袖の構成が動作のしやすさへの適合性を検討した。

方法　実験対象と腕付根圍、上腕圍の計測方法は前報と同じである。前回の計測値と差があるかどうかを検討後、細部の計測をおこなった。即ち腋窩より上方の体幹、上腕の伸縮性を動作別に検討すると共に、同じ動作について各々の袖の着用評価を求めた。

結果　ヌード格子により運動したもなう皮膚の動きはもう昭然であるが、各被験者のあつたに、同一動作に対し伸縮率は一樣でない。又、三角筋の辺により多くのゆとりを入れた袖、布目のちがう袖らと動作への適合性の一致はみとめられない。